

第1回 学校運営協議会

記録日時 令和8年6月7日（日） 午後2時45分～4時45分

場所 浜松湖北高等学校佐久間分校応接室

出席者 委員（敬称略） 山桐久次、坪井俊介、大見拳也、高橋恵子

学校 新井淳一校長、橋本徳一副校長、竹内寿次教頭

【開会】

1 校長挨拶

2 学校運営協議会説明〔事務局〕

3 委員任命及び自己紹介

4 会長及び副会長選出

会長 山桐久次 委員

副会長 高橋恵子 委員

5 文化祭見学（吹奏楽部演奏、エンディング）

6 議事1 会議成立 委員4人／4人出席

ア 佐久間分校の近況報告〔事務局説明〕

佐久間分校の近況について

《委員質問・意見》

- ・教職員のウェルビーイングが、生徒のウェルビーイング実現につながる。今年度はスクールポリシー具現化の柱に記載されているので、ぜひ推進してほしい。
- ・授業「地域」は企業等とも連携した良い取組であるが、取組の継続が課題となる。単年度で終了するのではなく、複数年で完成の取組があってよいと考えている。様々な企業と連携を積み重ねる中で、継続への手がかかり、手法等も蓄積していくと思うので、学校も1つ1つの取組が複数年継続することを意識して授業を行うことを期待する。
- ・全国募集を行う上で、寮や下宿の確保、特に女子の受け入れの充実が大切となるが、現状を知りたい。
（事務局）今年度は学校隣接の啓成寮13名の他に、女子3名、男子2名が下宿している。受け入れ先の充実にあたり、住居だけでなく食事の調理等の支援体制も必要となり、丁寧に進める必要がある。支援を受けている浜松市とも連携しながら、より良い環境整備を推進していきたい。
- ・弓道部の実績、進学実績が良いことも入学者増につなげたい。昨年度においても卒業生19名のうち2名が国公立大学であり割合は高いことは、発信の仕方次第で大きなアピールになると考える。
（事務局）今後もきめ細かな指導で、進学実績につなげたい。また、就職者の自己実現にも力を入れており、新城等への就職もある。進学のみならず、進路全般において、多様な進路実現に重点を置いていることも同時に発信したい。
- ・地域や企業との連携を発信することで学校の独自性も打ち出すことができる。この連携をいかに推進できるかが大切となる。地域学で作成の「竹灯籠」を「古民家」等でも、ぜひ活用してほしい。

イ 学校経営計画「目指す学校像」の承認〔事務局説明〕学校経営計画「目指す学校像」について

《委員質問・意見》

- ・主な変更点や留意していることがあれば、教えてほしい。
（事務局）主な変更点として、新聞等校外メディア掲載数を15回から30回にしたこと、教職員のウェルビーイングを高めることが挙げられる。高い目標を設定しているものもあるが、達成に向けて力を入れて取り組みたい。
- ・生徒も当然であるが、教職員のウェルビーイングも大切であるので、しっかりと取り組んでもらいたい。

- ・第一希望の進路実現が果たせた生徒 90%は高い設定であるが、実現可能であるか。

（事務局）実際に志願した就職先、大学等の合格で、第一希望合格としている。

《委員承認手続き》⇒ 承認

7 議事 2

ア 意見交換

- ・水窪ローカルコープ等が取り上げられることがあるが、これらとの連携はあるか。

（事務局）特にしていない。

- ・県外の近隣 4 中学が受験できる制度は今もあるのか。

（事務局）今でも近隣の 4 中学は一般での受験が可能である。

- ・佐久間地区の交通のあり方について考える必要があると感じている。地域の交通の課題及びその解消に向けて、例えば、ある 2 地点をバスで接続したときの影響を考えること等の視点が大切となる。また、ライドシェアの考えも必要であり、既存のスクールバス等の活用が可能か否かも、交通面だけでなく、防犯上も安全につながり、これらの有効活用で流出の歯止め に一定の効果がある と考える。改めて、交通の視点も学校には意識してほしい。

（事務局）重要な指摘である。新規は難しいが、既存のものを活用する発想を持ちながら、可能性を追求したい。

【閉会】